

自動溶剤再生装置

アンコール

型式 **URS600EP2CE-J**
取扱説明書



ご使用前にこの「取扱説明書」をよく読み正しく
お使いください。誤った取り扱いは機械の故障や
大変な事故につながります。
機械を操作する前にいつでも見られるように大切に
保管してください。

この度は **SEIWA**「URS600EP2CE-J」をご選定いただきまして
厚くお礼申し上げます。





- 当機のご使用に際しては、この取扱説明書を熟読していただき、安全にご使用ください。
- 品質、性能向上または安全上、部品の変更を行う事がありますが、その際は本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください
- 不明な点やお気付きのことがございましたら、お買いあげ店、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

目 次

安全のために	1
1. 使用上の注意	2
1-1 設置	2
1-2 使用上の注意事項	2
2. 仕様諸元表	3
3. 各部名称・機能及び基本操作	4～8
3-1 各部名称	4
3-2 ライナーバッグの取り付け方	5
3-3 廃溶剤の注入方法	6
3-4 コントロールパネルについて	7
3-5 URS600EP2CE-J 温度設定	8
4. 作業操作手順	9
4-1 廃溶剤の注入	9
4-2 溶剤再生作業開始	9
4-3 再生溶剤の転送	9
5. 保守・点検	10～12
5-1 フタパッキンの交換	10
5-2 ライナーバッグの交換	10
5-3 コンデンサーの清掃	11
5-4 ヒューズの交換	12
5-5 ヒューズ規格と位置	12
URS 洗浄キット使用方法	13-14
安全カバーロックシステム	15
6. トラブル対策	16～19
付属品セットと使用法	20-23
ホースの取付	24-26
適応溶剤リスト	27
7. 構成部品図・部品表	28～29

安全のために

△印付きの下記のマークは安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。

 危険	適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う危険性 が大きいことを示します。
 警告	適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う可能性 があることを示します。
 注意	適切な事前注意をとらないと 傷害又は製品の重大な損傷を招く可能性 があることを示します。
 留意	製品の使用上の留意点や参考となる事柄を示します。

△ 危険

火気厳禁

- 高熱、火気、火花等引火原因となるものの付近への設置は、絶対に避けてください。
- 本体近くでは、たばこの喫煙や火花が出るような作業をしたり、火気を近づけたり絶対にしないでください。
- 換気の不十分な狭い場所での作業は、飛散した溶剤ミストに引火したり、蒸気を過分に吸引することがあり危険ですから、必ず換気の良い場所で使用してください。
- この装置にはアース線が付属していますので、アースの接地は確実に行ってください。アースが不十分ですと、静電気によるスパークで爆発や火災の危険性があります。
- 蒸留運転中に安全外フタやタンクフタを絶対に開けないでください。気化したガスが大量に出て大変危険です。

△ 警告

- ライナーバッグとバッグホルダーは、必ず正しく取り付けてください。
- 酸やアルカリ性の腐食性溶剤は、決して使わないでください。蒸留タンク、コンデンサー等の金属を腐食する可能性があり、大変危険です。
- 決してこの装置を**ニトロセルロース**の再生には使わないでください。**ニトロセルロース**は、摂氏 135 度で発火する可能性があります。
- 蒸留運転中は、装置内外の温度がかなり高くなり触れるとやけどする可能性があります。
- フタを開けた状態での本体の移動はしないでください。突然フタが閉まり、指等をはさむ危険があります。

△ 注意

- シンナー缶等の容器は、専用のフタをして安全な場所に保管してください。
- 保守、点検等を行う場合は、必ず電源プラグを抜くか主要スイッチを切り、本体に電気が流れていない事を確認し、装置が十分に冷めているのを確認してから行ってください。
- 蒸留運転中に、シンナー蒸気の漏れ、異音、その他の異常が発見された場合、速やかに“STOP” ボタンを押して蒸留作業を停止し、電源プラグも抜いてください。
- 関係者以外やお子様は近づけないでください。誤った操作やいたずらにより思わぬ事故を招きます。

1 使用上の注意(安全にご使用いただくために)

▶1-1 設置

- ①本溶剤再生装置を、換気の良い場所に設置してください。
- ②設置調整台脚を、設置場所の床の表面状態や、使用される溶剤受け容器の高さに合わせて装置が水平にしっかりと設置されるように、調節してください。
- ③電源が本体の後ろになるように設置し、交流 200V(ボルト)、15A(アンペア)以上の電源にしっかりと接続してください。コントロールパネルの LED ランプの L・M・H のいずれかが点灯したことにより通電が確認できます。

⚠ 重要注意

1. 塗装工場、板金工場等で溶剤蒸気が常時多量に発生するような場所や第一種、第二種危険地域に指定されている場所に設置する場合、必ず専門の電気工事業者に依頼し、適用される諸規定や法規に従って正しく本機の設置と電源コードの接続を行なってください。
2. 塗料や溶剤から出る溶剤蒸気は、通常、空気より重いので床に近いところに停滞します。したがって、高熱を発生したり、スパークが発生する可能性のある機器(特に電気機器)や、電源プラグの差込み等は床上げ 50cm 以上のなるべく高い位置で、本機からできるだけ離れた位置に設置することが大切です。
3. 電源コードを人や車両等の従来の可能性のある床面を通して設置せざるを得ない場合、必ず金属製のダウトやカバー等で保護し、電源コードの損傷を避けてください。

▶1-2 使用上の注意事項

- ①作業中は溶剤が体に付着したり、溶剤を吸い込んだりする事があります。保護眼鏡、手袋、エプロン、マスク等を必ず着用してください。
- ②タンクに溶剤を注いだり、清掃する際には、蒸気を吸い込まないように注意してください。
- ③蒸留する溶剤は必ず、可燃性、有毒性、発火点等を**製品安全シート**でご確認ください。
***製品安全シートは、溶剤製造メーカーに見てもらうことができます。**
- ④汚れた溶剤をタンクに注ぐ際、ヘドロ状・固形物は、ザル等で漉してから注ぐようにしてください。トラブル・エラー等、問題が発生する恐れがあります。

危険：火災が発生した場合、消火剤として水を使用しないでください。

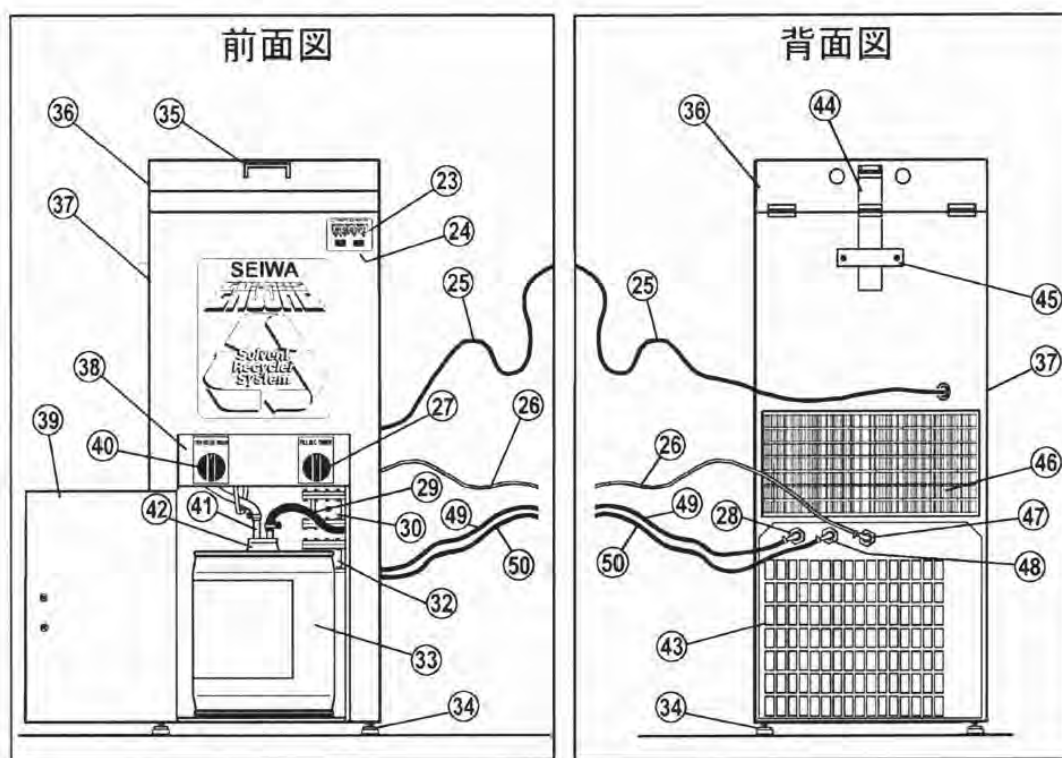
2 仕様諸元表

型 式	URS600EP2CE-J
防爆規格	IECEX BAS11.0057,Baseefa 11 ATEX0118, Ex db ib IIA T2 Gb CE1180
電 源	AC200V 15A 50/60Hz
消費電力(W)	最大1600W
蒸留方法	加熱、冷却による連続蒸留
タンク加熱方式	直接加熱方式
冷却方式	高率コンデンサー、ファンモーターによる強制送風式
制御方式	マイコン制御(自己診断機能付)
温度設定方法	タッチパネル式温度設定
再生容量/回	18リットル/回
蒸留速度	約4~6リットル/毎時
タンク注入方式	タイマーとダイヤフラム・ポンプによる自動注入方式
再生溶剤転送方式	タイマーとダイヤフラム・ポンプによる自動転送方式
安全機能	防爆構造・無発火電気回路・ヒーターサーモスタッド・ファンサーモスタッド・ コンデンサーサーモスタッド・高圧安全弁・自己診断機能・エラーコード表示機能・ ヒーター及びコンデンサー感熱プローブによるデジタル安全プログラム・ タンク安全外蓋・安全タイマー・シンナー缶機体内収納・三重遮蔽ヒーター
高圧安全弁作動	0.003~0.007Mpa
安全タイマー	6時間にて加熱停止
使用環境	屋内・屋外(火気及び高温発生源が付近にない事)
使用環境温度	5℃~35℃
供給空気圧力	0.5Mpa
設定温度範囲	90℃~200℃
蒸留可能沸点範囲	90℃~190℃
自己診断機能	マイクロプロセッサによる自己診断機能、エラーコード表示
蒸留検出機能	75分以内に蒸留が始まらない場合、自動的に運転を中止し、エラーコード表示
タンク室材質	ステンレス・スチール
装置外装材質	スチール
寸法 L×W×H(cm)	50×50×110
重量(kg)	50kg
付属品	ライナーバッグ…3枚(1枚はセット済み)、取扱説明書 バック・ホルダー(蒸留タンクに取付済)、 吸入用ホースセット、吸入用転送ホース・セット、移送用転送ホース・セット

※ 諸事情により、部品・付属品・仕様になる場合がございます。そのため画像や表示の違うものがございます。
ご注意くださいようお願いいたします。

3 各部名称・機能及び、基本操作

3-1 各部名称

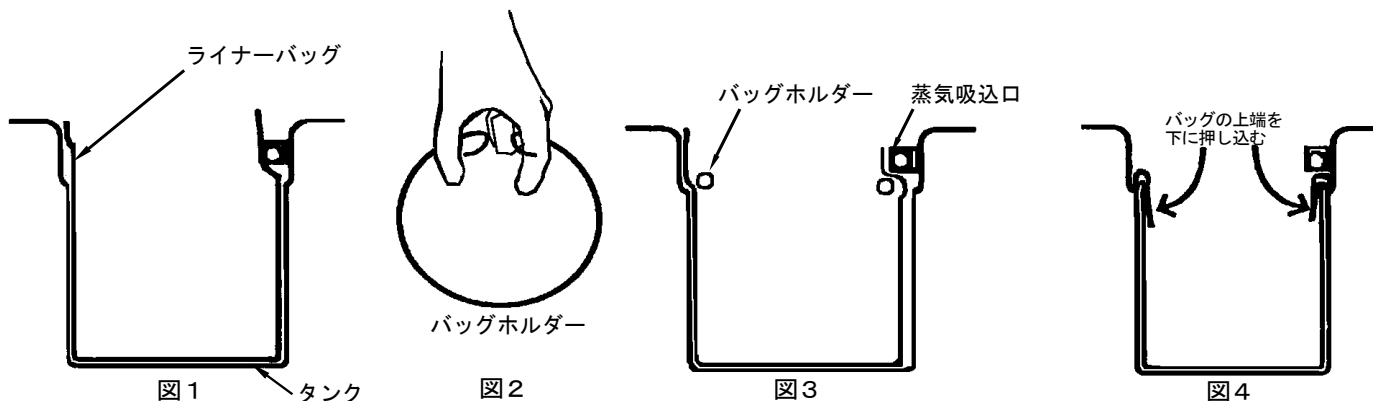


番号	名称	番号	名称
23	コントロールパネル	38	サービスドア
24	自動制御マイコン盤	39	装置本体ドア
25	電源コード(プラグなし)	40	転送用タイマー
26	空気供給ホース	41	再生溶剤出口パイプ
27	タンク注入タイマー	42	再生溶剤収容缶の開口部
28	転送用ホース接続口	43	背面カバー
29	転送用吸入ホース	44	安全外蓋ステー
30	転送用ダイヤフラム・ポンプ	45	安全外蓋ステー・摩擦版
32	タンク注入用ダイヤフラム・ポンプ	46	冷却用コンデンサー
33	再生溶剤収容缶	47	空気供給接続口
34	調節脚	48	タンク注入用ホース接続口
35	安全外蓋ハンドル	49	移送用転送ホース
36	安全外蓋	50	タンク注入用ホース
37	溶剤再生装置本体		

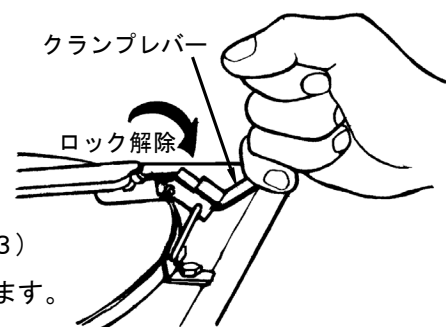
※25 電源コード(配線)は青色・茶色を電源に接続、黄色/緑色アース線

各部名称・機能及び、基本操作

3-2 ライナーバッグの取付



- ①安全外フタを完全に開きます。
- ②タンクフタのクランプレバーを持ち上げロックを解除し、タンクフタを開けます。
- ③タンクの底に平らになるように、また側面に隙間がないようにライナーバッグを入れます。(図1)
- ④バッグホルダーを指で押し縮めてライナーバッグ内に入れます。(図2, 3)
- ⑤バッグホルダーをタンク段の上で蒸気吸込口の下にくる位置にセットします。
(蒸気吸入口をふさがないようにしてください)
- ⑥ライナーバッグのふちを内側に折り曲げます。(図4)
(バッグホルダーより2・3cm程度で折り曲げてセット)



注意

◆高圧安全弁◆

タンクフタは、安全のため自動減圧弁構造になっています。
タンク内に圧力の異常な増加が生じた場合自動減圧弁が作動し 0.0035
~0.007Mpa で、圧力を解放し始めます。

注意

ライナーバッグ、バッグホルダーは、必ず正しく取り付けてください。
誤った取り付けをすると蒸気吸込口をライナーバッグが塞ぎ、危険な高
圧状態や爆発につながります。
付属のアース線は必ず取り付けるようにしてください。

3 各部名称・機能及び、基本操作

3-3 溶剤の注ぎ方

- ①汚れた溶剤をライナーバッグのセットされたタンクの中へ入れます。このとき汚れた溶剤をライナーバッグの外側にこぼさないように注意してください。
- ②漏れが起きないように、タンクフタをしっかりと閉じてクランプレバーをロックしてください。
- ③本機前面のドアを開けて、再生した溶剤を回収する容器（一斗缶、ペール缶等）を置き、溶剤排出口チューブを溶剤回収容器の上口に2cm以上入れ、ドアを閉めてください。

△ 注意

タンク上端のフタパッキンに汚れたシンナーや塗料が付くと、シールの寿命が著しく短くなりますので、タンク内側上端部のフタパッキン接触面は、ウエス等で拭く等して、いつもきれいにしておいてください。

最大使用量は18リットル、最小使用量は6リットルを目安としてご使用ください。溶剤を入れすぎて外側にこぼさないように注意してください。

汚れた溶剤が、蒸気吸込口に入らないように気を付けてください。蒸留した溶剤に色がついたりラジエーター内部などで目詰まりを起こす可能性があります。

酸やアルカリ性の腐食性溶剤は、決して使用しないでください。金属を腐食する可能性があり、大変危険です。

再生した溶剤が周囲にこぼれないよう、排出口チューブはしっかり回収容器内に入れてください。

3-4 コントロールパネルについて

①コントロールパネルは、この装置のすべての操作を行う為の大切な装置です。下図のように、5個のランプと2つの押しボタンがあります。

“START” ボタンを押すと自動蒸留運転が開始されます。

“STOP” ボタンを押すと運転中、一時的に装置を停止したい場合に使います。

注意

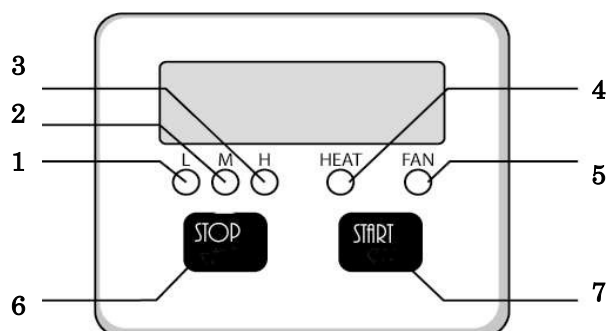
“FAN” ランプ点灯中は、“STOP” ボタンを押しても冷却ファンはタンクの温度が60℃以下に下がるまで止まりません。

② “LED (L)” “LED (M)” “LED (H)” “HEAT” “FAN” のランプは以下の状態を示します。

- “LED” ランプ・・・電力が供給されると LED (L)、(M)、(H) のいずれかが点灯します。
- “HEAT” ランプ・・・スタートボタンを押すとヒートランプが点滅します。
- “FAN” ランプ・・・スタートボタンを押すとファンランプが点灯します。

③ “LED” の3つのランプは、自己診断機能が不具合を自動的に検出した場合、点滅をして不具合状況を表示する働きもあります。詳しくは、自己判断機能を参照してください。(P16・17参照)

1	LEDライト LOW
2	LEDライト MID
3	LEDライト HIGH
4	HEAT LEDライト
5	FAN LED ライト
6	STOPコントロールボタン
7	STARTコントロールボタン



3 各部名称・機能及び、基本操作

3-5 温度設定

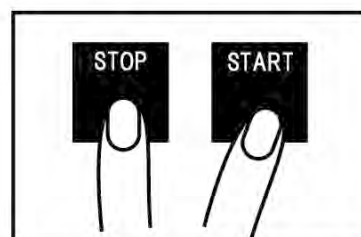
この製品には、6つの温度設定があります。沸騰温度の設定値は緑色のLEDライトで示されます。溶媒がリサイクルされる可能な限り低い温度設定を選択します。これは汚染された溶媒の沸点に最も近い設定を選択することによって行われます。これは純粋な溶媒の沸点に40°Cを加えることによって計算されます。

注) 溶媒の沸点は汚染が大きくなると上昇します。

注) 全ての温度設定は沸騰段階の開始点の目安であり、溶媒と汚染の程度によって異なります。

以下は、設定の概要と対応する表示です

温度設定	LED ライト		
	L (1)	M (2)	H (3)
90 °C	On		
115 °C	On	On	
140 °C		On	
165 °C		On	On
190 °C			On
200 °C	On	On	On



STOP ボタンを押しながら、START ボタンを1回押すごとに設定温度が切り替わります

温度を設定するには、次の手順に従います

1. HEAT および FAN の LED ライトがオフになっていることを確認してください
2. L/M/H のいずれかが設定されている温度で点灯しています。
3. 希望の設定温度に変更するには STOP ボタンを押しながら START ボタンを押すごとに L/M/H の LED ランプが温度設定表のように LED の点滅が移動します。
4. 設定したい温度での LED 点滅になりましたら、STOP ボタンから指を離します。
5. L/M/H の LED が設定された温度設定表のように点灯します

注意

溶剤の汚れが著しい場合や、油やグリース等が多く含まれる場合、蒸留温度が著しく高くなると温度設定を最高にしても、完全に再生が出来ないこともあります。

同じ溶剤を何回も繰り返し蒸留すると、徐々に沸点が上がっていきます。これは、繰り返し使用するうちに、溶剤に含まれている沸点の低い溶剤から先に蒸発して行くからです。溶剤の沸点は、汚れ具合や、何によって汚れているかにもより異なります。

4 作業操作手順

4-1 廃溶剤の注入

- ① タンクの蓋を開け、ライナーバッグとバッグホルダーをタンク内にセットします。
 - ライナーバッグの取付（工場出荷時はセット済み）（取付 P5 参照）

4-2 溶剤再生作業開始

- ① タンク内のライナーバッグ内に、適量の廃溶剤が注入されておることを確認します。
注意：廃溶剤の量が多すぎると、汚れが溶剤蒸気出口孔からコンデンサーに流れ出て、きれいな再生溶剤が出なかったり、コンデンサーが見詰まりして、不具合の原因になります。
- ② タンクの蓋にセットされているシール・リングとタンクの接着面をきれいに拭いてください。
- ③ タンク蓋のクランプレバーをしっかりとロックして、安全外フタを閉めます。
- ④ ドアを開け、排出口チューブが回収容器の開口部にはいるように、容器を設置してドアを閉めます。
- ⑤ 再生溶剤にあった、蒸留温度に設定します。（温度設定 P8 参照）
- ⑥ “START” ボタンを押すと、自動蒸留運転が始まり、“HERT” ランプが点滅し、“FAN” ランプが点灯します。蒸留温度設定を示すランプも点滅を始めます。
- ⑦ 蒸留過程が終了し、冷却過程に入ると、“HEAT” ランプが消えます。“FAN” ランプが停止し、蒸留タンクの温度が摂氏 60 度まで下がると“FAN” ランプが消え、再生作業が完了したことが分かります。

4-3 再生溶剤の転送

蒸留過程が終了し冷却過程に入ると、“HEAT” ランプが消えます。“FAN” ランプの点灯中は、次の再生運転を始められませんが、この時点で、下記の手順に従って再生溶剤を外部の容器や機器に転送することができます。本機を塗装ガン自動洗浄装置等に接続して、その 1 装置から出る汚れた溶剤を本機に転送し、再生されたきれいな溶剤を再びその装置に転送することができます

- ① 本機のドア (39) を開けて、転送用吸入ホース (29) が再生溶剤収容缶 (33) 開口部に十分に差し込まれていることを確認し、ドアを閉めます
- ② 付属品セットに含まれている移送用転送ホース (49) の一端のコネクターを本機背面の転送用ホース接続口 (28) に隔離と接続します
- ③ 再生溶剤を収容する為のペール缶、ドラム缶、本機をなるべく近くに設置します

△ 注意

ペール缶、ドラム缶等は内部に汚れがなく、きれいであることを確認してから使用してください。また、再生溶剤を長期保存する場合、ペール缶、ドラム缶等は耐久性のある高品質なものを使用してください。内部が腐食したり、錆びたりして、溶剤の劣化を招いたり、漏れを起こして危険です。

- ④ 上部の開口部のプラグを外してから、移送用転送ホース (49) の他端の出口管が振動等で外れる事がないように注意して開口部に差し込んでください
- ⑤ 転送用タイマー (40) を時計方向に一杯に回すとポンプが始動して本体内の再生溶剤収容缶 (33) から再生溶剤を収容する容器が途中で一杯にならないように十分に注意してください。

△ 注意

蒸留運転中は装置内外の部分の温度がかなり高くなるので、気を付けてください。安全外蓋やタンク蓋は、ランプ点灯中、また消えた 1 時間以内はタンク内に蒸気が充満しているため、絶対に開けないでください。蒸留運転中にシンナー蒸気の漏れ、異音、その他の異常が発生した場合、速やかにボタンを押して、蒸留作業を停止し、電源も切ってください。時間がたって十分に冷えたのを確認して、点検や修理を行うようにしてください。

5 保守・点検

事故や災害を未然に防ぎ、装置を長年にわたり効果的にご使用いただくためには、正しい保守・点検を行うことが、最も重要です。以下の説明に従って、定期的に必ず保守と点検を行ってください。

5-1 蓋パッキンの交換

蓋パッキンは、溶剤蒸気の漏れを防ぐために大切な部品です。蓋パッキンは耐久性に優れた合成ゴムですが、タンクとの接触面に傷が付いたり、ゴミやペンキ等で汚れていると密閉性が悪くなり、溶剤蒸気漏れが起きる可能性があります。タンクとフタパッキンの接触面は、常に清潔に保っておいてください。蓋パッキンは、毎回蒸留作業を行う前に点検してください。損傷等が発見されていた場合は、以下の手順で交換してください。

①安全カバーとタンクの蓋を開けます

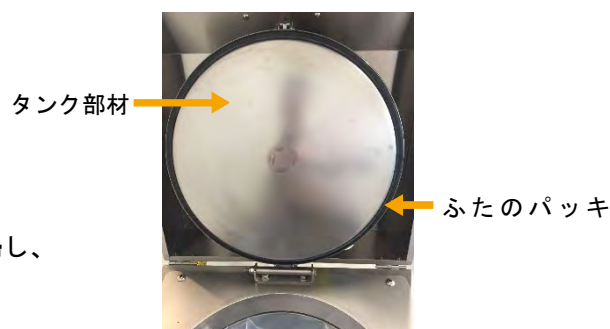
②片手で蓋を開けたまま、マイナスドライバーを使用して損傷した蓋パッキンを取り外します。

③蓋パッキンがあった蓋の端を擦り傷/研磨剤(不織布)で清掃し、新しいパッキンを導入する前に全ての汚染を取り除きます

④新しい蓋パッキンを手で取付け、リングを指で徐々に完全に押し込みます。リングが平らに配置され、変形が見えないことが重要です。これはリングの全長に沿って真っ直ぐでなければならないリングの水平な縫い目によって確認できます。新しい蓋パッキンを取り付ける際には、鋭利なものを使用しないでください。

⑤蓋パッキンの交換が完了しました

⑥蓋ガスケットの正常な機能を確認するために、タンクを約10Lのきれいな水で一度リサイクルすることをお勧めします



5-2 ライナーバッグの交換・タンク・冷却配管の清掃

- ライナーバッグは消耗品です。毎回新しいものを使用してください。

△ 注意

●タンク内の汚れは、性能に影響を与えます。

ライナーバッグの外にこぼした溶剤や、蒸留過程に起きる結露によってタンク内が汚れてしまうことがあります。

その場合は、必ずウエス等で拭くなどしてきれいにしてください。また、タンク内の過度の汚れは、熱伝導性が悪くなり、蒸留速度が遅くなる等の不具合が生じます。

タンクの表面は、特殊アルマイト処理をしていますが、清掃時に堅い金属製の道具を使うと、表面に傷をつけタンクの寿命が短くなりますのでご注意ください。

●蒸留物が冷却配管を詰まらせる場合があります。

蒸留物が常温で粘度があったり、溶媒(用材に溶けているもの)も共に蒸留された場合、冷却配管(蒸気吸込口からコンデンサーにかけて)内に残り、つまりの原因となることがあります。

使用後は配管内をエアガン等で吹き、残留物を除去するか、溶剤を流し清掃してください。

5 保守・点検

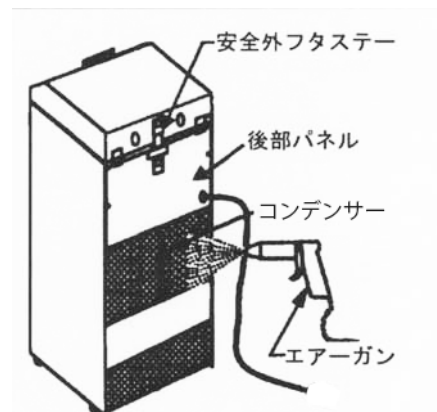
5-3 コンデンサーの清掃

- ① コンデンサーがオーバーヒートすると、ヒーターが自動停止し、自己診断機能が働き、“LED(L)”ランプ“LED(H)”ランプが点滅し、エラーコードを表示します。

●エラーコードP 16・17参照

- ② 過熱状態が10分以内に解消されると、自動的に蒸留運転が再開されますが、異常が10分以上続くとエラーコード24と変わり、完全に蒸留運転が停止します。

この場合、タンクの温度が摂氏60度以下に下がるまで冷却ファンは止まりません。



⚠ 留意

コンデンサーが空気中の塵やゴミ等で汚れると目詰まりを起こし、冷却高率が低下します。

装置の後部より定期的に点検し、汚れている場合は以下の手順でコンデンサーを清掃してください。

- ① 感電等の不慮の事故を避けるため、点検前に必ず電源を切ってください。
- ② 装置を前方に引き出し、後方で作業が出来るようにスペースを作ってください。
- ③ 上図のようにエアージェットでエアを吹き付け、コンデンサーの裏側に付着しているチリやゴミを取り除いてください。

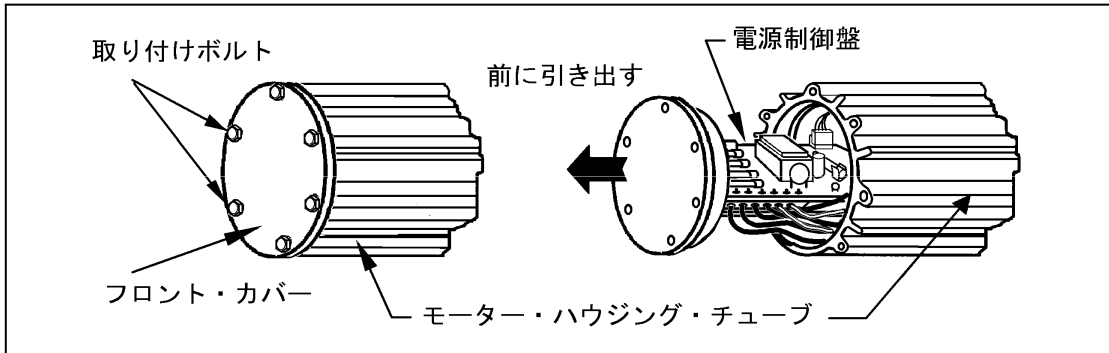
⚠ 注意

エアージェットする場合は、空気圧は約 0.4Mpa 以下にして、コンデンサーを破損しないように注意してください。

5 保守・点検

5-4 ヒューズの交換

ヒューズは、モーターハウジング内に収納されている、電源制御盤上に設置されています。十分に余裕があるヒューズが使用されているため、切れる可能性はほとんどありませんが、万一ヒューズが切れた場合は以下の手順で行ってください。



- ①感電等の不慮の事故を避けるため、点検前に必ず電源を切りコンセントを抜いてください。
- ②ドアを開けると、フロントカバーがドア上部に見えます。
- ③取り付けボルトを外します。
- ④フロントカバーの周囲を均等に少しずつ前方に引き出します。
- ⑤フロントカバーを約 10cm 引き出すと、ヒューズが見えてきます。この際、電源制御板盤に接続されている電線等が外れないように、十分に気を付けてください。(下図参照)
- ⑥テスター等で不良のヒューズを確認してから、正しいヒューズと交換します。
- ⑦位置に気を付けながら、フロントカバー等を均等に少しずつ押し込んで元に戻します。
- ⑧取り付けボルトを取り付けて、フロントカバーを元通りに取付けます。

△ 注意

必ず正しい規格のヒューズを使用してください

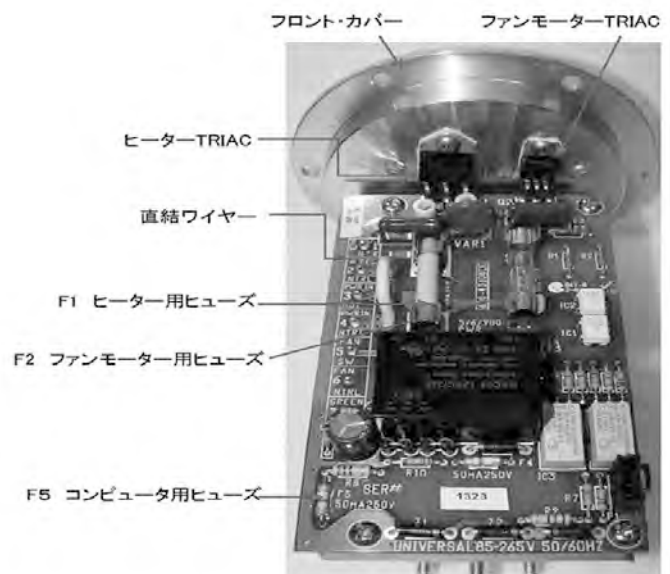
5-5 ヒューズ規格と位置

全部で 3 本のヒューズが使われていますが、その規格は下記の図の通りです。

- F1 は、30 アンペアでヒーター用
- F2 は、2.0 アンペアで冷却ファンモーター用
- F5 は、0.05 アンペアでコンピューター用は固定式で交換できません

△ 注意

F5 が切れている場合、コンピューター回路のショート島、外部の不具合が原因ですから、必ずその原因を対策した後に、電源制御盤を交換してください。



5 保守・点検

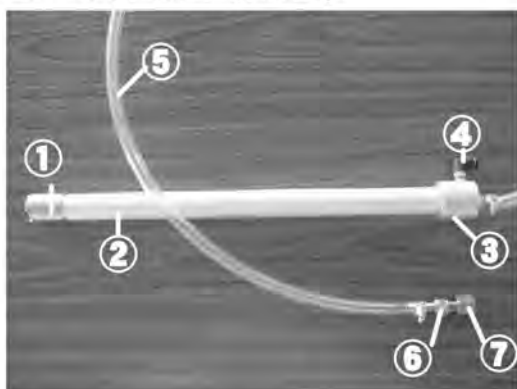
URS洗浄キット使用方法

1. 使用目的

本洗浄キットは「アンコール(URSシリーズ)」のコンデンサーパイプ内を洗浄するためのものです。

ご使用に際してはこの説明書を熟読していただき、正しく御使用ください。

2. 本体構成(外観)

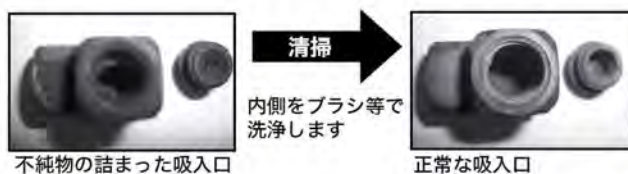


- ①吸入本体
- ②外管
- ③吐出本体
- ④エア吸入口(エルボ)
- ⑤ウレタンチューブ
- ⑥竹の子ユニオンジョイント
- ⑦ジョイント(1/4PTF×1/4PFM)

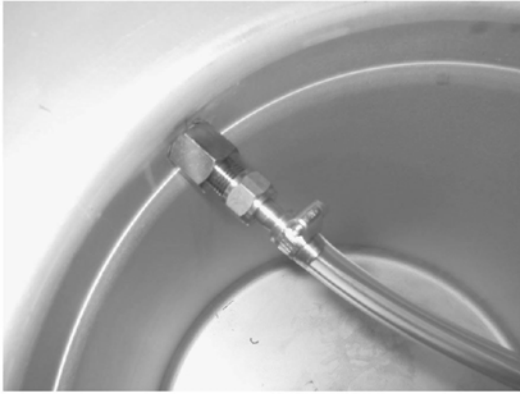
3. 洗浄手順



1. タンクから蒸気吸入口を外します。
2. 外した蒸気吸入口を分解して、中の汚れを落とします。清掃後、再度組み立てます。



3. 洗浄キットのジョイント(部品番号⑦)のみをタンクの吸入口部分の先に締め付けた後、竹の子ユニオンジョイント(部品番号⑥)を接続します。



4. タンクと洗浄キットを接続した際、左図のようになります。

※エアを送る際、溶剤が勢いよくチューブの中を通過しますのでジョイントはしっかり締め付けてください。斜めに締め付けるとタンク本体のネジを破損する可能性があります。



5. 排出口に受け用の缶を用意する。

※勢いよく液が飛び出しますので排出口管は缶の中に入るようにしっかりセットしてください。



6. 洗浄キット本体を新品の溶剤の入った缶にセットする。

※新品の溶剤の量が少ないと、エアを送っても正常に吸い上げない場合があります。液面高さ10cm以上でご使用ください。



7. 洗浄キットのエア吸入口(部品番号④)にエアガン等でエアを送り、溶剤をコンデンサーに流し込みます。

排出口から出る溶剤がきれいになるまで洗浄を繰り返します。

※一回の溶剤噴出時間は1秒程度です。

溶剤が出なくなったらエアを止め、洗浄キット本体に溶剤が充てんされるまで5秒程待ち、再度エアを加え、これを繰り返します。

※エアの圧力は約0.7MPa以下にしてください。

<コンデンサー洗浄時期の目安>

- 再生後に回収される溶剤の量が少なくなったと感じた時
- 再生後の溶剤が完全に透明にならずに着色する時
- 再生液が回収されるのに時間がかかるようになった時

◆安全カバーオートロックシステム◆

安全カバーオートロックシステムは安全機能です。機械の運転中にオペレーターが誤って安全カバーと蒸留タンクの蓋を開けるのを防ぎ、オペレーターが蒸留タンクの蓋の高温表面に触れてしまう事や蒸留タンク内の液体に触れる事を防ぎます。

1. ポジティブロック機構を備えた安全カバー
2. 安全カバー状態のモニターキット
3. オートロック機構
4. 自動ロック制御ハードウェアとソフトウェアを備えた新しいコンピューター

※START を押すと、ピンがかみ合い、安全カバーがロックされます

安全カバーを閉じた状態で START を押すと、オートロックシステムのピンがかみ合い、安全カバーがロックされ、リサイクルプロセスが開始されます。ピンは横の写真に示されています。安全カバーが閉じた位置にない場合、リサイクルプロセスは開始されず、エラーコード#22が表示されます。安全カバーが5秒以内に閉じられない場合、エラーコードは#41に変わります。STOP を押してエラーコードをクリアにします。

リサイクルプロセス中に機械の電源供給が妨げられた場合、安全カバーはロックされたままになります。蒸留タンクがまだ高温の時に電源が回復した場合、蒸留タンクが READY 温度に冷えるまで安全カバーはロックされたままになります。

リサイクルが終了すると、冷却ファンが停止し、ファン LED が消灯し、安全カバーのロックが解除されます。



6 トラブル対策

装置の作動中に、蒸留効率の低下、溶剤蒸気の漏れ、異常な高熱、異音の発生、その他の異常や故障が発生した場合、迅速に正しい処置をとり、未然に事故や火災等を防止しなければなりません。そのため下記の説明をよく読んで、理解して頂くことが大切です。

容易に検知できる異常が無くても、蒸留運転終了後に、タンク内に溶剤が多量に残っていたり、蒸留効果の低下の疑いがある場合は、P22 6-3 水を使った性能テストの手順に従って水を使った試運転をすると、装置が正常に働いているかどうか、簡単に判定できます。

6-1 自己診断機能

作動中に故障、その他の不具合が発生すると自己診断機能が働き、“LED(L)”ランプと“LED(H)”ランプが交互に点滅してエラーコードを表示しどのような不具合が起こったかを知らせます。“LED(M)”ランプはエラーコード表示に使用しません。

コード右側に記載された説明に従って、必要な対策を取ってください。

エラーコード	LED ランプの点滅		考えられる原因	対策
	LED(L)	LED(H)		
1 1	1 x	1 x	●タンクの熱電対が壊れており、開回路になっています。	●サービスに連絡
1 2	1 x	2 x	●コンデンサーの熱電対は開回路です	●サービスに連絡
1 3	1 x	3 x	●コンピューターの障害	●コンピューターの交換が必要 ●サービスに連絡
2 1	2 x	1 x	●加熱回路は、開回路を有する。	●サービスに連絡
2 2	2 x	2 x	●セーフティカバーが完全に閉じていない場合 ●ロックピンの動作不良 ●インターロックセンサーまたは配線の問題	●電源コードを安全に抜いてください。 ●サービスに連絡 URS600CE を少なくとも3時間冷まします。 URS600CE が完全に冷えるまで、いかなる状況でも蓋を開けないでください。
2 3	2 x	3 x	●コンデンサーが過熱している。	●コンデンサー内の温度が 75℃を下回るまで加熱回路は自動的にオフになります。 このプロセスに10分以上かかる場合、URS600CE はエラーコード 24 に切り替わります。
2 4	2 x	4 x	●コード 23 が 10 分以上続く	●加熱回路は自動的にオフになりますが、ファンは FAN ライトが消えるまで冷却され続けます。 URS600CE が冷めたら、安全な方法で電源コードを抜いてください。蒸留タンクからの残りの溶液・残留物を取り除きます。

6 トラブル対策

エラーコード	LED ランプの点滅		状況と考えられる原因	対 策
	LED (L)	LED (H)		
2 4	2 x	4 x		<ol style="list-style-type: none"> 1. コンデンサー外側を点検して清掃し、すべての冷却フィンが清潔で自由になるようにします。 2. URS600CE の周囲に少なくとも、15 cm の空きスペースがあり、部屋の温度が 5-40℃であることを確認します。 3. ファンモーターが正常に作動していること確認、これを行うには空の状態です URS-600CE を電源装置に再接続し、短時間オンにします。ファンモーターがオンになります。 <p>これらの手順が問題なく完了した場合は、15 リットルのきれいな水でテストサイクルを実行して、問題が修正されたかテストします。うまくいかない場合はサービス・修理に連絡してください。</p>
3 1	3 x	1 x	<ul style="list-style-type: none"> ● 溶媒は 45 分以内に沸点に達しません。 ● 溶媒の種類に対して設定温度が低すぎます。 ● 溶媒の沸騰温度が高すぎます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● FAN ライトが消え、URS600CE が冷えるまで待つ、蒸留タンクを空にして清掃し、ライナーバッグを戻し、タンクに少なくとも 6 リットルの溶剤を入れます。 ● FAN ライトが消え、URS600CE が冷えるまで待つ、溶媒の沸騰温度を確認、これが許可されている場合は、より高い温度に設定する ● この溶剤はリサイクルできません
3 2	3 x	2 x	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源障害によりリセットが発生しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● STOP ボタンを押してから、START ボタンを押して、プロセスを続行します。通常 URS600CE は故障していません。
3 3	3 x	3 x	<ul style="list-style-type: none"> ● 停電のため、または溶媒に対して沸点が低すぎるため、リサイクルは 6 時間以内に完了しませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沸騰設定値を上げて、再試行してください。READY の設定 (H) だけでは機能せず、最高沸点設定、溶媒の沸点が 200℃ を超え、リサイクルできません。通常 URS600CE に欠陥はありません。
4 1	4 x	1 x	<ul style="list-style-type: none"> ● インターロック機構がタイムアウトしました 	<ul style="list-style-type: none"> ● インターロック機構がタイムアウトしました。AGer ミニギアモーターの作動の 5 秒後、ロック状態の変化は発生しませんでした。 ● 機械的な問題。 ● 安全なロック機構を変更します。

6 トラブル対策

6-2 その他の不具合現象

状 況	考えられる原因	対 策
●電源コードをつなぎ、電源を入れても“READY(L)”ランプ “READY(L)”が点滅せず、液晶表示が出ない。	●電源制御盤のヒューズF2又はF4が切れている可能性が高い。	●ヒューズを交換。 P12 ヒューズ交換参照
●注入タイマーを回して、廃溶剤をタンクに注入時にスプラッシュが強く周囲に飛散する	●本機に内蔵されている圧力レギュレーターが正常に作動していないためポンプに供給されるエア圧が高すぎる	●圧力レギュレーターを調整するか、交換する
●注入タイマーを回して、廃溶剤をタンクに注入時に、注入速度が遅く、タイマーが止まっても充分に注入できない	●本機に供給されるエア圧が低すぎる ●本機に内蔵されている圧力レギュレーターの不具合でエア圧が低すぎる ●注入ポンプが正常に働いていない ●注入ホースの接続部等、注入経路にエア漏れがある ●注入ホースの吸入管が塗料カス等で詰まって廃溶剤の流れを悪くしている	●供給されるエア圧を6kg以上に上げる ●圧力レギュレーターを調整するか、交換する ●注入ポンプを修理するか、交換する ●接続部を確りと締めなおし、エア漏れもなくす ●吸入管を掃除して、目詰まり等を除く
●蒸留運転が終了したのに、タンクにたくさんの溶剤が残っている	●設定温度が低い ●油やグリース類の清掃に使った溶剤の場合、沸点が高くなって蒸留ができなくなる ●蒸留カスがタンクの底にたまりヒーター熱がタンク内の溶剤に伝わっていない	●設定温度上げて、再度蒸留運転を繰り返して最適の温度を見る ※溶剤の中には沸点が高くこの装置では蒸留できないものもあります ●蒸留カスは毎回取り除いてください ●ライナーバックの交換
●溶剤の蒸気フタ周辺から漏れている	●蓋パッキンが古くなって、摩耗硬化したり傷ついている ●タンク蓋パッキンの接着面が過度に汚れている	●古くなった蓋パッキンは交換 ※装置使用中に汚れた溶剤が蓋パッキンに付着したり、傷つけたりしないように十分に気をつけてください P10 蓋パッキン交換参照 ●タンクを傷つけないように汚れを取り除く ※タンクの蓋パッキンに面を傷つけると、汚れの原因となり、タンクの交換が必要となることもあります

6 トラブル対策

状 況	考えられる原因	対 策
●蓋パッキンやタンクのフタパッキンの接着面に異常がないのに溶剤の蒸気がタンクフタの周辺から漏れてる	●フタロックスプリングのシール圧力の低下の可能性がある ●冷却部分の配管蒸気吸込口からコンデンサーにかけて詰まってしまう	●タンク蓋ホルダー・バーの中部のボルトを調節してシール圧を高める ※タンク蓋ホルダー・バー調節手順参照 ●配管内の清掃もしくは部品の交換

▶ 6-3 水による性能テスト

自己診断機能による試験で異常が無くても、装置が正しく作動しているかさらに確認したい場合、下記の手順で、水を使って蒸留運転をしてみることが有効です。

水は沸点が摂氏100度と正確に決まっているため、作動の判定基準になります。

- ①タンクから、ライナーバッグを取り除きます。
- ②タンクに約1～2リットルの水を入れます。
- ③温度設定を170度にして、蒸留運転をします。
- ④約15分経つと、蒸留された水が出始めます。
- ⑤蒸留過程では、あまり温度変化無く蒸留が続きます。
- ⑥タンク内の水がほぼ無くなると、温度が上がり始めます。
- ⑦摂氏170度近くに達すると、ヒーターランプが点滅を始めます。
- ⑧約10分後に、ヒーターランプが消えます。ファンランプは点灯しています。
- ⑨タンクの温度が60度まで下がると、ファンランプも消えて、冷却ファンが止まります。
- ⑩タンク内がすっかり空になっていれば、この装置が正常に作動していることが確認されます。

付属品セットと使用法

◆付属品セット◆

- ①本機には下の表にある様に、多くの付属品が含まれています。
これらの付属品を上手に使うことによって本機の多様な性能を充分に引き出して下さい。

番号	・付属品名称と用途	個数
1.	取扱説明書	1部
2.	フィルター・セット 供給される空気から、水分やゴミ、錆び等の異物を除去します。	1セット
3.	耐熱ライナー・バッグ 固形の蒸留カスを除去する為に使用します。1枚はあらかじめ蒸留タンクに取り付け済みです。	3枚
4.	バッグ・ホルダー 蒸留タンクに取り付け済みです。	1個
5.	タンク蓋シール・パッキング 蒸留タンクの蓋に取り付けられている、蓋シール・パッキングが磨耗した時に使う予備の蓋シール・パッキングです。	1個
6.	再生溶剤容器	
7.	吸入用パイプ (全長約 90 センチ) 廃液を外部の廃液ドラム缶等から蒸留タンクに吸入します。	1セット
8.	転送出口パイプ (全長約 36 センチ) 再生液を本機内の再生液容器から、外部の再生液収納ドラム缶等に注入する為に使用します。	1セット
9.	吸入用転送ホース・セット (全長約 2メートル) 廃液を塗装ガン洗浄機等の外部機器から蒸留タンクに吸入します。	1セット
10.	移送用転送ホース・セット (全長約 2メートル) 再生液を、塗装ガン洗浄機等の外部機器や再生液貯蔵用のドラム缶等に移送するのに使用します。	1セット

- ②本機の梱包を開けて上記の付属品が入っているか確認して下さい。
③取扱説明書や、直ぐに使わない付属品は大切に保管して下さい。
④耐熱ライナーバッグやタンク蓋シール・パッキンは消耗品ですから、早めに発注して常時在庫にして下さい。
⑤表の6～9までは、本機と外部の機器や容器との間で、廃液や再生液の移送をする為に使用します。
ユニラム製の塗装ガン洗浄装置や部品洗浄機には、本機との接続用の専用コネクターが装着されている機種が多くあります。

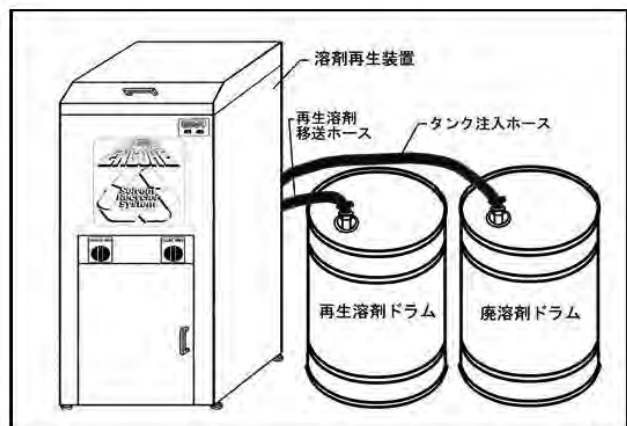
※諸事情により、内容が変更となる場合がございます。予め、ご了承くださいませようお願いいたします。

◆外部の溶剤容器と接続としての使い方◆

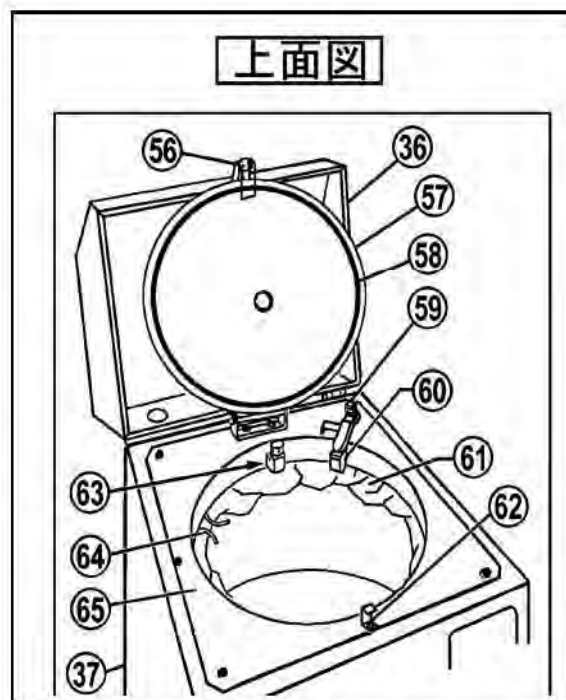
再生しようとする廃棄溶剤が入ったドラム缶等の容器や、再生したきれいな溶剤を収容する為のドラム缶等の容器と本機を移送用付属部品を使用して接続し、溶剤を自由に移送する事が出来ます。

蒸留タンクの充填

- 再生しようとする廃棄溶剤が入ったドラム缶等の容器を本機の近くに移動し、上部の開口部のプラグを取ります。
- 容器底部に塗料カス、ゴミその他の汚れ物質が底部に溜まって固形化している場合、攪拌装置や棒等で充分に攪拌して下さい。固形化したまま吸入作業に移ると、吸入パイプ等が詰まって不具合の原因になります。



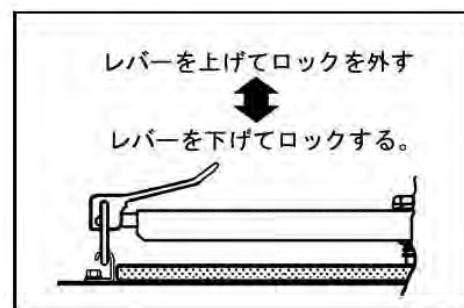
- ③ 吸入パイプの接続ネジ部を上にして、パイプを容器の開口部に差し込みます。吸入パイプの下端が容器の底部に付くように十分に差し込んで下さい。
- ④ 吸入用ホース・セットのホースの端の簡易コネクター（45°）を吸入パイプの接続ネジ部分に接続します。液や空気漏れが起きないようにしっかりと接続して下さい。
- ⑤ 吸入ホース・セットのホースの SOLVENT IN のラベルのある端の簡易コネクター（90°）を、本機背面の SOLVENT IN のラベルのある接続部（右側）に接続します。液や空気漏れが起きないようにしっかりと接続して下さい。これで蒸留タンク充填の為の吸入作業の準備が完了しました。
- ⑥ 本機の安全外蓋(36)を開けます。次に、フロント・クランプ(56)のハンドルを上げてロックを外し、蒸留タンク蓋(57)をいっばいに開けます。ライナー・バッグ(61)がタンク(65)内に正しくセットされているのを確認して下さい。
- ⑦ 右側後部の注入バルブ(59)のハンドルを右に 90°回して開けます。
- ⑧ タンク注入用タイマー(27)を時計方向にいっばいに回すと、ポンプが始動して注入口フィティング(60)から廃溶剤がタンク(65)内に注入されます。この際に溶剤がはねて周囲に飛び散らないように注意して下さい。
- ⑨ ポンプが止まって注入が完了した事を確認してから、注入バルブ(59)のハンドルを反時計方向に 90°回します。
- ⑩ タンク蓋(57)を閉じて、クランプ(56)の留め金をクランプ・フック(62)に掛けてから、クランプ・レバーを押し下げて、タンク蓋(57)を確りとロックして下さい。本機前面のドアを開けて、再生した溶剤を回収する容器（一斗缶、ペール缶等）を置き、溶剤排出口チューブを溶剤回収容器の上口に 2 cm 以上入れ、ドアを閉めて下さい。



番号	名称
56	タンク蓋クランプ
57	タンク蓋
58	タンク蓋シール・ガスケット
59	注入バルブ
60	注入口フィティング
61	ライナー・バッグ
62	クランプ・フック
63	溶剤蒸気出口フィティング
64	バッグ・ホルダー
65	蒸留タンク

再生溶剤の移送

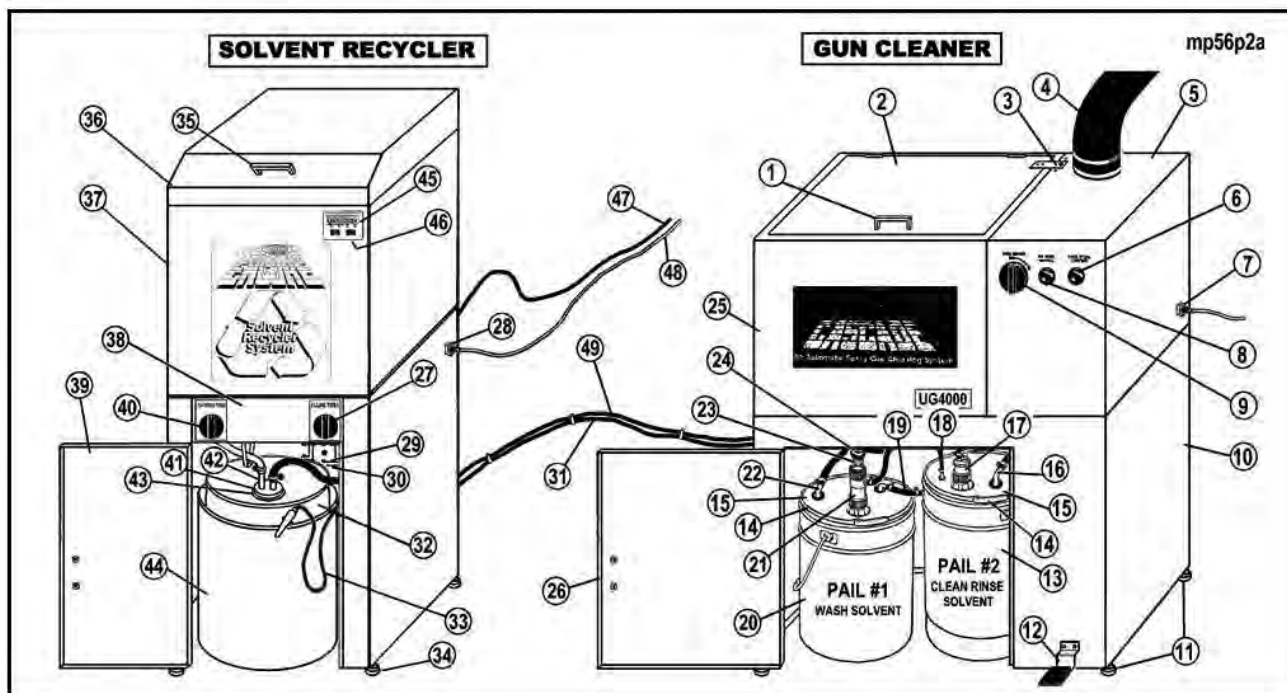
- ① 再生溶剤を収容するドラム缶等の容器を本機の近くに設置します。容器が空で汚れや錆び等が無い事を確認して下さい。
- ② 転送出口パイプの接続ネジ部に移送用転送ホースの端（45°）の簡易コネクターを接続します。
- ③ 転送出口パイプを再生溶剤容器上部の開口部に差し込みます。振動や反動で転送口パイプが外れないように留意してください。
- ④ 移送用転送ホースの SOLVENT OUT のラベルのある端の簡易コネクター（90°）を本機背面の SOLVENT OUT のラベルのある接続部（左側）に接続します。液や空気漏れが起きないように、しっかりと接続してください。これで再生溶剤の移送作業の準備が完了しました。
- ⑤ 転送用タイマー（向かって左側）を時計方向に一杯に回すとポンプが始動して（20 リッター）から再生溶剤が外部の再生溶剤容器に移送されます。



◆塗装ガン洗浄機等の外部機器と接続して使用する仕方◆

本機を塗装ガン洗浄機や部品船所機等の外部の機器に接続して、自動的に廃液や再生溶剤の移送を行なう為には、上の表に見られる吸入用転送ホース・セットと移送用転送ホース・セットの2本を使い下記の手順で行なって下さい。

注：ユニラム製の塗装ガン洗浄装置や部品洗浄機には、本機との接続用の専用コネクターが装着されている機種が多くあります。然しながら、外部機器に転送用ホース・セット接続用のホース通過孔や接続部が装備されていない場合、下記の手順で本機と接続出来ない事もあります。



外部機器との接続

- ① 本機を再生しようとする廃溶剤が入った塗装ガン洗浄機や部品洗浄機等器の外部機器の近くに設置します。
- ② 吸入用転送ホースのホースの端の45°の簡易コネクターを、外部機器の後部ホースの通過孔を通して、キャビネット内に引き込みます。
- ③ 吸入用転送ホースのホースの端の45°の簡易コネクターを、洗浄用溶剤容器のコネクターに接続し、液漏れがない様に確りと締め付けます。(右図参照)
- ④ 吸入用転送ホースの SOLVENT IN のラベルのある端の簡易コネクター(90°)を本機背面の SOLVENT IN のラベルのある接続部(右側)に接続します。液や空気漏れが起きない様に確りと接続して下さい。
- ⑤ 移送用転送ホースのホースの端の45°の簡易コネクターを、外部機器の後部のホース通過孔を通してキャビネット内に引き込みます。



- ⑥ 移送用転送ホースのホースの端の 45° の簡易コネクターをリンス溶剤容器のコネクターに接続し、液漏れがない様に確りと締め付けます。(前頁図参照)
- ⑦ 移送用転送ホースの SOLVENT OUT のラベルのある端の簡易コネクター (90°) を本機背面の SOLVENT OUT のラベルのある接続部 (左側) に接続します。液や空気漏れが起きないようにしっかりと接続してください。これで本機と外部機器の接続が完了しました。

蒸留タンクの充填

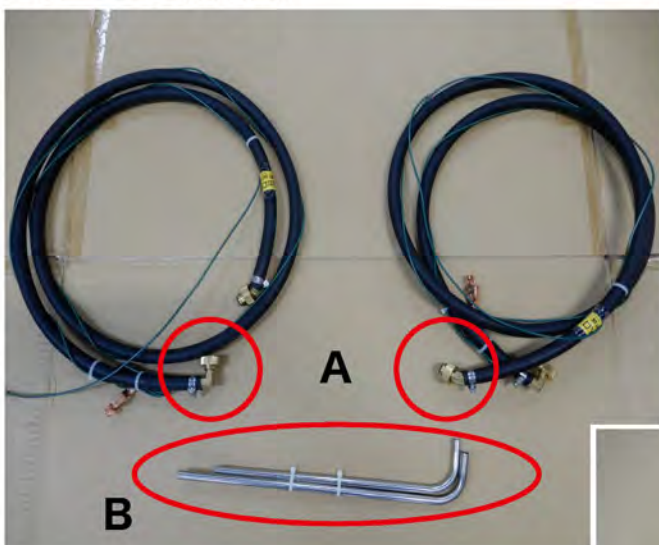
塗装ガン洗浄機等の外部機器内の汚れた洗浄用溶剤を本機の蒸留タンクに充填するのは、下記の手順で行なって下さい。部品名と番号は第 2 頁の図を参照して下さい。

- ① 本機の安全外蓋 (36) を開けます。次に、フロント・クランプ (56) のハンドルを上げてロックを外し、蒸留タンク蓋 (57) をいっぱいに開けます。ライナー・バッグ (61) がタンク (65) 内に正しくセットされているのを確認して下さい。
- ② 右側後部の注入バルブ (59) のハンドルを右に 90° 回してあけます。
- ③ タンク注入用タイマー (27) を時計方向に一杯に回すとポンプが始動して注入口フィティング (60) から廃溶剤がタンク (65) 内に注入されます。
この際に溶剤が跳ねて周囲に飛び散らないように注意して下さい。
- ④ ポンプが止まって注入が完了した事を確認してから、注入バルブ (59) のハンドルを反時計方向に 90° 回します。
- ⑤ タンク蓋 (57) を閉じて、クランプ (56) の留め金をクランプ・フック (62) に掛けてから、クランプ・レバーを押し下げて、タンク蓋 (57) をしっかりとロックして下さい。

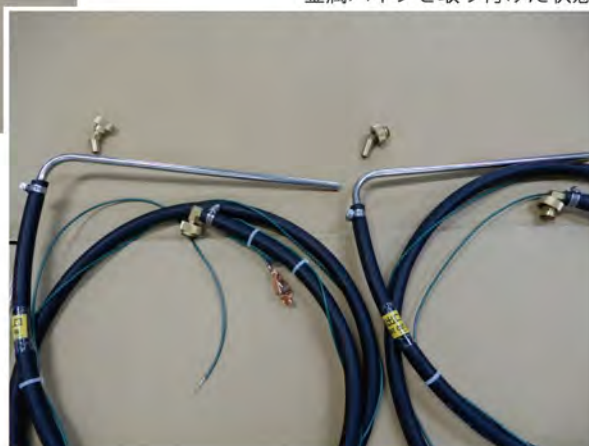
再生作業を開始する前に本機前面のドアを開けて、再生した溶剤を回収する容器 (付属品) の上部開口部に排出パイプが正しく挿入されている事を確認してからドアを閉めて下さい。

ホースの取付法

1.ホースを準備する



金属パイプを取り付けた状態



↑2種のホースの**A**の金具を外します。
外したら**B**のパイプを取り付けます。
(長いパイプを溶剤入口側するのがおすすめ)

2.本体にセットする



パイプを取り付けたホースを
それぞれ溶剤入口・出口に接続します。
パイプ側は廃溶剤の入った缶、
再生済み用の缶に差し込んでください。↓



再生済み溶剤が入る缶(出口)

廃溶剤の入った缶(入口)

3.エアー側準備

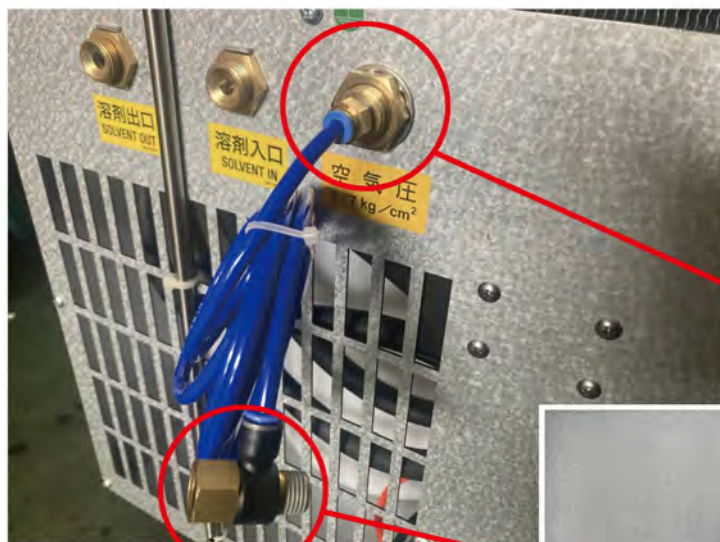
エアー側は下記の例を参考にコンプレッサーに接続してください

参考例1



←空気口にエアーカップラを取り付けた例
取付 1/4ネジカップラ

参考例2



付属のエアーパイプを使用した一例

付属品のパイプ

4.タンク始動



※溶剤が跳ねて周囲に飛び散らないよう注意してください。



- ①クランプレバーのロックを外し、タンクフタを開けます。
- ②右側後部の注入バルブハンドルを左に回して開けます。
- ③タンク注入タイマーを時計方向に回します。
- ④ポンプが始動し、注入口から廃溶剤がタンクに注入されます。

5.廃溶剤注入後



- ①溶剤がタンク内の定量に達したらバルブハンドルを右に回し停止。
- ②停止を確認後タンクフタを締め、クランプロックをします。
- ③安全フタを閉じ準備完了。
- ④移送用タイマーを回して溶剤再生がスタート。



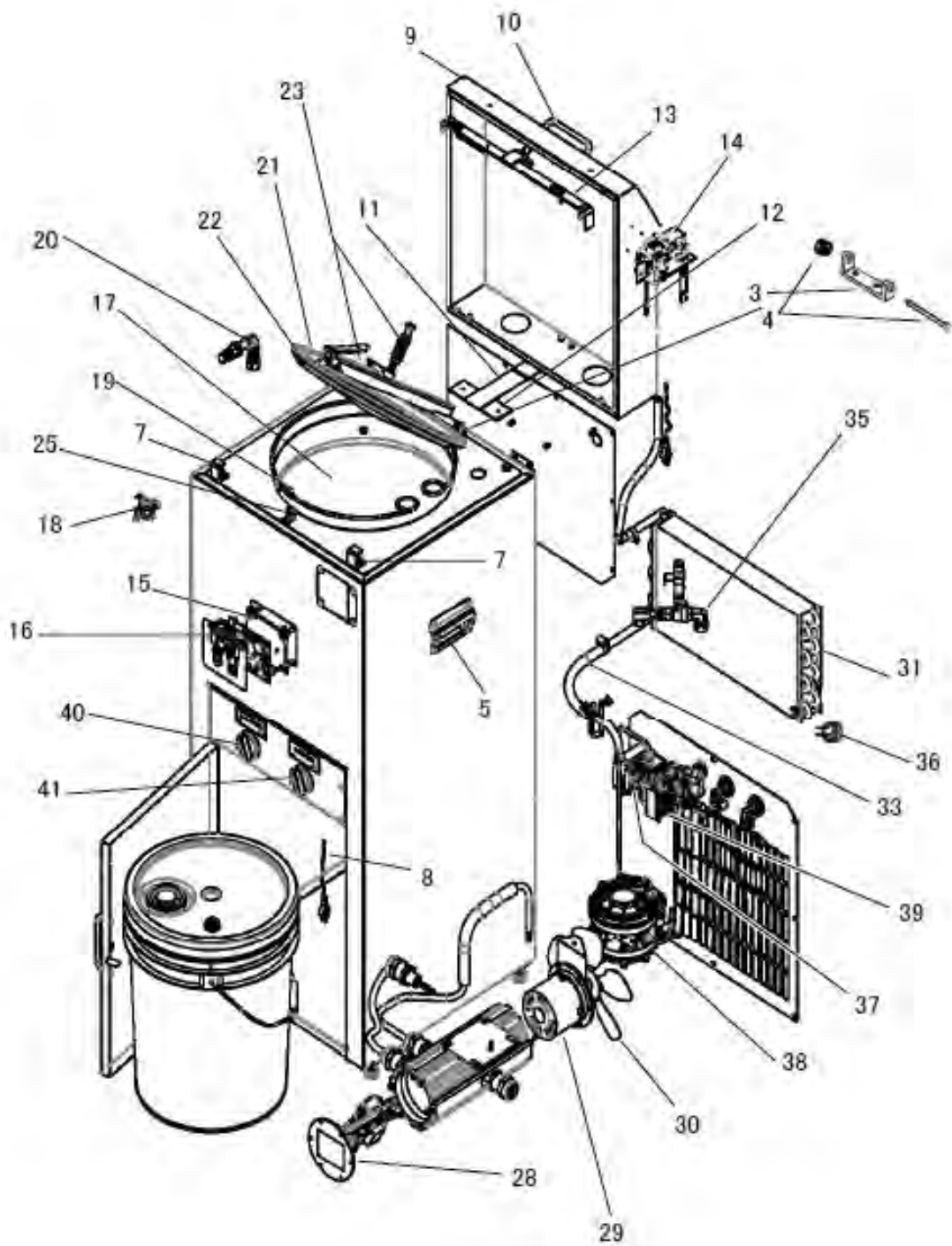
適応溶剤

適応溶剤リスト

溶 剤 名	沸騰温度(摂氏)	溶 剤 名	沸騰温度(摂氏)
■アルコール類■		■アイカノラミン類■	
エミル・アルコール	127 - 137	エチレンジアミン	117
イソブチル・アルコール	106 - 109	■エステル類■	
N・ブチル・アルコール	116 - 119	エミル・アセテート(STD)	127 - 155
SEC・ブチル・アルコール	98 - 101	エミル・アセテート	140 - 150
サイロヘキサノール	160 - 161	イソブチル・アセテート	112 - 119
エタノール	74 - 80	N・ブチル・アセテート	122 - 128
エタノール95%	74 - 80	SEC・ブチル・アルコール	104 - 115
イソ・ヘキシル・アルコール	140 - 160	EEアセテート溶剤	145 - 166
N・ヘキサノール	151 - 159	EMアセテート溶剤	140 - 147
メチル・エミル・アルコール	81 - 83	エチル・アセテート(85-88%)	71 - 79
3・メソキシ・ブチル・アルコール	155 - 164	エチル・アセテート(90%)	76 - 78
イソプロピル・無水アルコール	81 - 83	ヘキシル・アセテート	165 - 169
イソプロピル・アルコール91%	79 - 80	メチル・エミル・アセテート	140 - 150
N・プロピル・アルコール	96 - 98	イソプロピル・アセテート	85 - 90
■脂肪性石油系ナフサ類■		N・プロピル・アセテート	98 - 102
ヘプテーン	93 - 97	イソブチル・イソブチレート	144 - 151
ラッカーBT(1-3)	80 - 100	■テルペン炭水化物■	
ラッカー希釈剤BT(2)	76 - 103	ターペタイン・ガム	155 - 160
ラッカー希釈剤6(2)	94 - 104	蒸留ターペタイン	157 - 164
ラッカー希釈剤10(1-2-3)	94 - 105	アルファ・ピネン	156 - 158
ラッカー希釈剤17(1-2)	94 - 106	■グリコール・エーテル類■	
ラッカー希釈剤20(1-2)	94 - 106	エチレン・グリコール・メチル・エーテル	124.6
VM8&ナフサ66(1-2-3)	121 - 139	エチレン・グリコール・エチル・エーテル	135.5
345溶剤(1-2-3)	153 - 172	エチレン・グリコール・Nブチル・エーテル	171.1
360-66溶剤(1-2)	154 - 173	プロピレン・グリコール・メチル・エーテル	120.1
■アイカノラミン類■		エチレン・グリコール・イソブチル・エーテル	158
ジェサノラミン(DEA)	168 - 169	■ケトン及び諸活性溶剤類■	
モノイソプロパラノミン	159 - 163	アセトン(低沸点タイプ500SJLのみ適応)	55 - 57
モルフィリン	126 - 130	サイクロヘキサン	154 - 161
■芳香性炭化水素溶剤■		ジアセトン・アルコールAF	145 - 172
ベンジン(1-2)	79 - 80	ジアセトン・アルコールTech	60 - 170
トルエン(1-2-3)	110 - 111	ジエチル・ケトン	100 - 104
トリクロロエチレン(トリクレン)	86.7	ジイソブチル・ケトン(DIBK)	163 - 173
SC溶剤2(1-2)	98 - 109	1,4ダイオキシソ	101 - 102
SC溶剤27(1)	100 - 111	エチル・エミル・ケトン	156 - 162
SC溶剤25(2)	99 - 137	メチル・オキサソ	120 - 135
SC溶剤26(1-2)	100 - 136	メチル・ブチル・ケトン(MNBK)	126 - 130
SC溶剤28(1)	103 - 136	メチル・エチル・ケトン(MEK)	79 - 80
キシレン(1-2-3)	138 - 140	メチル・イソアミ・ケトン(MIAK)	141 - 148
エチルベンジン(1-2)	135 - 137	メチル・イソブチル・ケトン(MIBK)	114 - 116
SC溶剤37(1)	131 - 138	メチル・Nプロピル・ケトン	97 - 107
SC溶剤38(1)	131 - 145	2・ニトロプロパン	119 - 122
SC溶剤38(2)	130 - 169	601溶剤	74 - 84
SC溶剤38(3)	135 - 171	■室内用洗剤■	
SC溶剤100(1-2-3)	159 - 169	ダウクリンWR	73 - 86
		イソトロン・ポリカーネイト	74 - 86

※ 溶剤の汚染の程度により、再生温度を設定する際に、適温に30度を加えて下さい。

7 構成部品図・部品表



7 構成部品図・部品表

	品目コード	品目名	数	備考	区分
03	419061	ブラケット	1		P
04	419062	ボルトナット	1	7・25の固定ボルト/ブラケットボルト付	P
05	419065	ハンドル	2		P
07	419075	安全カバー用ラッチ、SSタンク	2	手配品	P
08	419074	ワニ口とリング付アース線	1		P
09	419002	安全外フタ(インターロックなし)	1	手配品	P
09	419008	安全外フタ(インターロック付)	1	手配品	P
10	419038	取手(フタ・ドア共通)	1		P
11	419009	安全外フタステー	1		P
12	419067	摩擦版	1		P
13	419077	SSタンク用安全カバーシティブロック	1	手配品	P
14	419076	安全カバーインターロックシステム	1		P
15	419080	コンピューター取付プレート	1		P
16	419035A	コンピューターボード	1		P
17	419004S	ステンレスタンクAssy (600専用)	1		P
18	419007	ヒーターサーモスタット	1		P
19	419003	バックホルト	1		P
20	419044	蒸気吸入口エルブ	1		P
21	419002S	タンクフタ	1		P
22	419001	フタパッキン	1		P
23	419060	バー、クランプセット	1		P
25	419064	フロントクランプキャッチ	1		P
28	419012C	CE電源ボード	1		P
29	419045	ファンモーター	1		P
30	419047	ファン	1		P
31	419006	URS500/600用コンテナー	1		P
33	419011	排出口チューブホリイフレシ	1		P
35	419081	バルブキット	1		P
36	419059	コンテナーサーモスタット	1		P
37	419109	出口用ダイヤフラムホソフ	1		P
38	419111	溶剤入口用ダイヤフラムホソフ	1		P
39	419124	エアレギュレーター	1		P
40	419082	移送用タイマー	1		P
41	419113	タンク注入用タイマー	1		P

溶剤再生機の運転開始前に必ず下記空欄に必要なことごとを記入してください。点検の時に大変役に立ちます。

項目	ご記入欄		
型式	URS600EP2CE-J	ご使用開始年月日	
製造番号		ご購入先 (必須)	
ご購入年月日		※必ずご記入ください	TEL ()

アフターサービスについて

保証規定

1.保証内容

お買い上げの日から1年の間に正常な使用状態にも関わらず弊社の責任に基づき故障が発生した場合は無償修理させていただきます。

2.適用除外 ●保障期間中でも下記の場合には適用いたしません

- (1) 不当な修理や改善による故障、損傷。
- (2) お買い上げ後の落下などによる故障、損傷。
- (3) 火災、塩害、ガス外、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障、損傷。
- (4) 使用・取扱い上の酷使、過失、手入れ不十分および外的損傷による故障、損傷。
- (5) ノズル、摺動部の磨耗およびパッキン等の消耗部品。
- (6) 注意事項および取扱説明書に記載した内容の範囲外の条件で使用した故障および損傷。
- (7) 書類に不当な字句訂正などがあった場合。

3.本書はお買い上げの納品書(納入口が記載されていることを確認)とともに大切に保管してください

ユーザー登録について

～保証対象の確認および、速やかな保証対応のために、機械購入時にユーザー登録をお願いしています～
同封の保証書に必要事項をご記入いただきFAXいただくか、弊社ホームページ経由でも受付をしています。
ホームページ経由でご登録いただけますと、ご購入いただいた商品のメンテナンス情報、関連する付属品、
便利なオプション品情報、新商品情報など、定期的に情報配信をさせていただきます。
是非、この機会にご利用くださいますようお願いいたします。

・登録場所/精和産業トップページ右側「保証書ユーザー登録」

<https://www.seiwa.com>

ここからも登録できます→



修理サービス

修理はお買い上げの販売店又は、弊社最寄りの営業所にご連絡ください。

SEIWA 精和産業株式会社

浜松配送センター 〒432-8006 静岡県浜松市中央区大久保町1348
TEL 053(485)6181 FAX 053(485)6180

仙台	981-1105	仙台市太白区西中田6-15-13	TEL 022-241-2145
群馬	371-0854	群馬県前橋市大渡町1-8-6	TEL 027-251-3457
東京	136-0072	江東区大島5-12-7	TEL 03-3638-6911
神奈川	242-0029	大和市上草柳8-28-18	TEL 0462-63-3029
名古屋	453-0839	名古屋市中村区長葦町4-15	TEL 052-412-1717
大阪	547-0001	大阪市平野区加美北8-1-18	TEL 06-6794-3511
岡山	710-0841	倉敷市堀南606-1	TEL 086-426-5200
福岡	818-0912	大野城市御笠川1-8-7	TEL 092-504-7213
エス・アイ ツール	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘2-22-10	TEL 0992-75-7550
塗機商事	903-0124	中頭郡西原町呉屋108-6	TEL 0989-43-4495